



特集

道元禅師ものがたり

11

大宰府から京の都へ上り、 建仁寺に入ります



空手にして郷に還る

道元禅師は熊本の川尻の港に到着しました。嘉禄三年（一二二七）道元禅師二十七歳のときです。その縁もあって、川尻には大慈禅寺が禅師の高弟によって建立されています。大宰府で帰国の手続きをした禅師は、しばらく大宰府にとどまりました。

やがて、禅師は京の都に向かいます。建仁寺に入り、明全和尚の追善供養をねんごろに営みました。

道元禅師の帰国は「空手還郷」と言われます。空手還郷とは、「何も持た

ずに帰ってきた」という意味ですが、

これは道元禅師が自ら説法で述べられている言葉からきています。如浄禅師のもとで正しい仏法を悟り、それを伝えるために帰ってきた。経典も仏具も何も必要ない。必要なのは、ただ坐禅のみである。その思いが「空手還郷」という言葉に込められています。

『普勸坐禅儀』を執筆

道元禅師は帰国直後から、『普勸坐禅儀』の執筆に取り掛かります。普勸とは、人々に広く勧めるという意味で

No. 35
2012 Spring

山松舎
臨南寺

す。坐禅儀とは坐禅の作法のことです。つまり、『普勸坐禅儀』は「坐禅のススメ」なのです。

如浄禅師から教えられた正しい坐禅のあり方を説き明かすとともに、具体的な坐禅の仕方が詳細に示されています。「結跏趺坐は、まず右の足を左のモモの上に置き、左の足を右のモモの上に置く。半跏趺坐はただ左の足で右のモモを押す」から始まり、両手の置き方、呼吸の仕方、部屋のありようまで事細かに述べられています。

そして、坐禅は悟りを得るために行うものではない。坐禅が悟りそのもの、仏そのものであり、「安楽の法門」だということです。当時、坐禅は悟りを得るための修行のひとつと思われていました。道元禅師の教えはそれに真っ向から反対するものでした。『普勸坐禅儀』は立宗宣言でもあったのです。

多くの人々との出会い

建仁寺は、道元禅師がいない間に風紀がゆるみ、礼儀がすたれていました。

「正しい仏法」を広めようとする道元禅師の思いも、ここでは果たされそうにありません。

帰朝した道元禅師の評判を聞いて多くの人が訪ねてきました。のちに道元禅師の後継者となる懷奘禅師もその一人です。道元禅師より二歳年上で、当時は日本達磨宗の僧でした。六波羅探題という鎌倉幕府の要職にあった波多野義重も、このころから道元禅師の話の聞きに足しげく訪れていました。

そして、如浄禅師の訃報を持つてはるばる宋からやってきたのが寂円です。寂円は建仁寺の荒廃をいち早く見抜き、心置きなく坐禅に打ち込める僧堂のある叢林を建てよう道元禅師に訴えるのです。

やがて道元禅師は、こうした人々に背中を押されるように建仁寺を後にするのですが、その話は次号とさせていただきます。



お彼岸にはご家族そろって

お参りください 三月二十三日



三月二十日の春分の日を中心

「彼岸ひがん」は、迷いの世界であるこの

とした二週間を「お彼岸」と呼び

世「此岸しがん」に対して、悟りの世界

ます。今年は、十七日から二十三

であるあの世のことです。お彼岸

日までの二週間です。各地のお寺で

は、もともとは悟りを開くよう修

は彼岸会の法要が営まれ、先祖供

行する期間として設けられました

養が行われます。檀信徒のみな

たが、それとともに、死んだ人をこ

んは、お寺の彼岸会に参加し、家

の世（此岸）からあの世（彼岸）へ

族でご先祖のお墓に参り、家では

渡す追善供養の期間でもありま

団子やぼたもちをお供えしまし

す。

よう。

臨南寺では、三月二十日に彼岸

会写経会を開き、二十三日には午

てきました。鎌倉時代からは武士

後一時から彼岸会施食会を修行い

の間にも広がり、江戸時代には庶

たします。彼岸会施食会では、亡

民の間に定着していきました。春

くなられた方の冥福を祈ってお経

分の日は、昼と夜の時間の長さが

を上げ、先祖供養の法要を行いま

同じになり、太陽が真西に沈みま

す。当日ご都合の悪い方は、事前

す。西方浄土を礼拝するのに、こ

ご回向をお受けいたしますので、

れ以上ふさわしい時期はないかも

お問い合わせください。

しれません。

寺景 臨南百景



梅峰竺信禅師の

お墓

前回、臨南寺の二世中興である梅峰竺信禅師の彫像を紹介しました。寛永十年（一六三三）大阪に生まれ、貞享元年（一六八四）臨南寺の住職に就かれました。

は開祖として迎えられたのです。以来禅師は、臨南寺と興禅寺とを行き来して過ごしました。宝永四年（一七〇七）秋、興禅寺にいた禅師は病が重くなりました。死期を悟った禅師は弟子にお棺を作らせ、「入棺じゆ頌」を読みました。十一月十九日、人々を集め、その目の前で自ら偈をしたため、終わると眠るように遷化したと伝えられます。世寿七十四歳。お墓は興禅寺の開山堂にあります。

その後、叵山道白禅師と二人で宗統復古運動に尽力、成功に導きました。

元禄十六年（一七〇三）七十歳のとき江戸から帰り、東吉野の白雲山興禅寺に入りました。この寺は兵庫県・豊岡城主の京極氏の旧居を修復したもので、禅師



東吉野の興禅寺にある梅峰竺信禅師のお墓。

私の長い人生 松島純子様

人生には人それぞれの道があると思います。私は三十歳前後から看病の始まりでございました。祖母、両親、兄、主人七十二歳まで病気の世話をしてまいりました。いろいろな体験をし勉強になりました。

一番印象に残りましたのは、看病十三年間世話をしてまいりました父がなくなる寸前に枕元へ御仏様の立派に立っておられるお姿を生れて初めて見て一瞬驚きま

したが、父が喜んで感謝とお礼の言葉を言ってくれたことと思いがした。私も長い看病をした甲斐があつたと心から嬉しく思いました。御仏様に朝晩手を合わすことが多くなりました。主人も五年間嫌なこともなく最後まで看病してまいりました。今日まで来られたのも御仏様が体を守ってくださつたことと思ひ、感謝いたしております。

主人が居る頃に親友から臨南

救われました 小原喜志子様

平成十六年暮れから思いもかけなかつた事が次々と続いて、十八年十月には主人が重い病に倒れてしまいました。半年ぐらい過ぎた頃にはかなり疲れて自分も同じようになるとはと落ち込むのを見かねてか、息子が「何か短い時間でも集中して楽しめるようなことを始めてみたら」と言うてくれました。

迷いましたが、まず写経をと思ひました。初めて案内されて中に

入つた時、静かで誰も知らない中で二字二字一生懸命書きました。二時間半ぐらいはかかつたと思ひます。

外に出て本堂の横のベンチに腰かけてほつとした時、新緑のさわやかさとここ何年か味わたつたことのない穏やかなゆつたりした気持ちになりました。その足で主人の入院先に行き話しますと、言葉は出ないけれどどうなつてくれました。

寺でお写経をされておられると聞き、連れて来てくださつて三年になります。なかなか上達は致しません。その時はとても心が落ち着いて何も考えずに書いております。これからは主人の供養と思つて書いてまいりたいと思ひます。



仲良くお写経される小原さん(左)と松島さん(右)。

もう五年近くになりますが、今でもお写経が終わつた後の心地よさは変わりません。二年前に主人は七十九歳で亡くなりました。私も今年はその年齢になります。が、なんとか大病せず健康で来られたことに感謝し、まだまだ続けていけたらと思つています。

臨南寺行事予定 (三〜五月)

○ 彼岸会写経会

* 三月二十日

午前十時〜午後三時(受付は随時)
亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字一文字心を込めて、お写経なさいませんか?
お写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。(費用千円)

○ 彼岸会お墓経

* 三月二十日・二十一日

午前十時〜午後三時(受付は随時)
どちらかご都合の良い日にお越しください。
臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

○ 春季彼岸会施食会

* 三月二十三日 本堂にて

午後二時〜午後三時(受付は二時三十分まで)
亡くなられた方にお経をあげ、先祖供養の法要を行います。ご家族そろつてお墓参りもなさいませんか?

○ 降誕会(花祭り)

* 四月八日 午前九時〜 本堂にて

お釈迦様のご誕生を祝う法会です。本堂前に誕生仏を安置して、甘茶を注ぎます。ご参拝の皆様にも甘茶が振る舞われます。お子様、お孫様とご一緒にどうぞ。

○ マトリ合同法要

* 五月十三日 午後一時〜

本堂でお話を聞いた後、マトリで亡くなられた方の冥福を祈ります。しずかなお気持ちで二日を過ごしましょう。

弁財天祈禱会

一月十五日

一月十五日、弁財天祈禱会が修されました。新年を迎えて、厄を払い福を招く法要が営まれ、多くの檀信徒の方がお参りになりました。法要の前には、護師の法話があり、法要の正常院副住職の成澤祐吾と破魔矢が授けられ、甘酒が振る舞われました。



住職が皆様の無病息災や家内安全を祈願。

釈尊涅槃会

二月十五日

お釈迦様が入滅された時の様子を描いた涅槃図を須弥壇にお祀りし、お釈迦様に供物をささげお経を誦読しました。法要のあと五色の涅槃だんごをいただきました。



五色の涅槃だんご、美味しくいただきました。

首座法戦式

二月十六日

首座というのは、修行する僧の先頭に立つ役僧のことで、曹洞宗のお坊さんは一度は務めなければなりません。長居の慈光寺徒弟の木谷正典師が首座を務める法戦式が臨南寺で行われ、大澤住職が法幢師の重職を務めました。



当山の大賀師のご子息義法君が弁事役を立派に務めました。

墓苑をご利用の皆様へお願い



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻ください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。
- トイレにはトイレトーパー以外は流さないでください。ティッシュペーパーは水に溶けません。ウエットティッシュや紙オムツも絶対流さないでください。

編集後記

今年は大相撲の大阪場所が開催されることになりました。貴乃花親方が先乗りでPR活動に奮闘する姿が報じられていました。臨南寺の境内にも鏡山部屋がやってきます。お相撲さんの姿を見たら声をかけて激励してあげてください。

記事のご感想をお寄せください。(M)

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日

午前六時半～ 本堂にて

*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後三時

写経料・千円 椋伽林一階にて

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時～

*二月・八月は、お休みさせていただきます。

*いずれも事前のお申し込みが必要です。

「ほ～っと」35号

平成24年3月

編集・発行：椋伽林「ほ～っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com